

# 中世壬生氏の

—壬生氏五代と壬生旧臣—



壬生綱房肖像

会期：  
平成29年 9月16日[土]—10月29日[日]

当歴史民俗資料館では、9月16日[土]から10月29日[日]まで、「中世壬生氏の興亡」展を開催いたします。

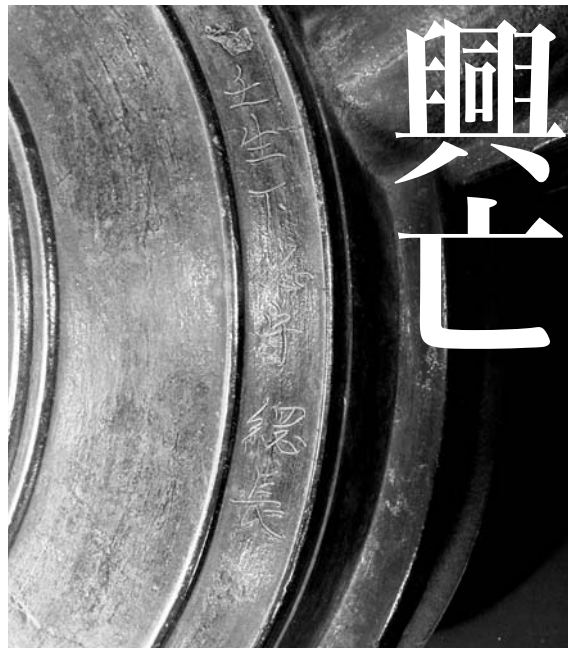
15世紀の中ごろから壬生を支配した戦国大名、壬生氏。初代である壬生彦五郎胤業は京都の公家、壬生官務家(小槻家)の出身と伝えられますが、その真の出自はいまだ謎に包まれています。胤業は初めて壬生城を築き、城の鎮守として近江国(滋賀県)から雄琴神社を勧請するなど、城下町としての壬生の基礎をつくり上げました。

宇都宮氏の有力な家臣として仕えていた壬生氏は、一方では鹿沼と日光を手中におさめ、鹿沼城を築き、子弟を聖地日光山の支配者として送り込んで、街道沿いに独自の勢力を伸ばします。

ついには主君であった宇都宮氏の内紛に乗じて宇都宮城を乗っ取るなど、下野の戦国時代をしたたかに生き抜いた壬生氏ですが、時代の流れには逆らえず、やがて全国規模の争いに巻き込まれていきます。後北条氏についた壬生氏は宇都宮氏らと争い、最終的には小田原城に立て籠もった後北条氏とともに豊臣秀吉の軍に敗北。壬生上総介義雄の病死により、壬生氏はわずか五代で終わりを迎えることとなります。

しかし、壬生やその周辺に残された壬生氏の旧臣たちはその後も結束を守り、日光社参の宿場町として生まれ変わった江戸時代の壬生にも影響を与え続けました。

本展では、県域に残された壬生氏の関連史料から、謎に包まれた壬生氏五代の足跡と旧臣たちのその後を探ります。



今宮神社鰐口銘(部分)

- ◆休館日 月曜日、祝日
- ◆開館時間 午前9時—午後5時  
(但し、火曜日は午後1時から)

- ◆観覧料 無料
- ◎問合せ 歴史民俗資料館学芸係 ☎82-8544